

# 「タイ環境学習キャンプ報告」 8.17~25(8泊9日)

中込貴芳（ごみさん・自然文化誌研究会副代表理事）（以下、中込ミと記載）

今年のタイ環境学習キャンプは8月17日(土)~25日(日)に実施されました。参加者は総勢8名と多くの応募がありました。今回のキャンプの大まかな行程は、以下の通りになります。

17日 成田空港からバンコク（ラジャバト・プラナコン大学のグランド・ビューホテルに宿泊）

18日 バンコクからバンライのパンダキャンプへ（パンダキャンプの近くの民宿に宿泊）

途中サムチェク百年市場を訪問 パンダキャンプのエッセンシャルオイルの研究等の取り組みの見学

19日 ワークショップ（パンダキャンプの近くの民宿に宿泊）

午前、パネルシアター、目の仕組みの工作、日本のラジオ体操(子供向け)

午後、折り紙(子供向け)、日本のハーブ酒やお茶の紹介(大人向け)

20日 バンライからファイ・カ・ケン野生生物保護区へ(保護区内の宿泊施設に宿泊)

野生動物観察塔にて、野生の牛、クジャク等の観察 野生生物保護区近郊の河川の堤でアジアゾウの観察

21日 ファイ・カ・ケン野生生物保護区滞在(保護区内の宿泊施設に宿泊)

保護区内のトレイルで植物や動物の観察 野生動物保護施設でトラやマレーグマ、ヒョウなどを観察

野生生物保護区近郊の河川の堤でアジアゾウの観察

22日 ファイ・カ・ケン野生生物保護区からバンライへ(パンダキャンプの近くの民宿に宿泊)

タイマッサージ お別れのパーティー

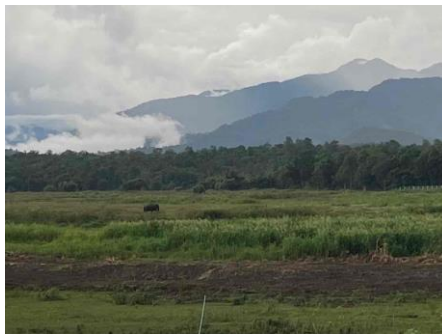
23日 バンライからバンコク(ラジャバト・プラナコン大学のグランド・ビューホテルに宿泊)

タイの先生とタワンデー ジャーマン ブリュワリーでショーを見ながら タワービールで乾杯

24日 バンコクから成田へ

1日自由行動、スワンナプーム空港へ

25日 午前成田空港に到着



今回参加者にキャンプの感想を書いてもらったので紹介します。

## Kさん

この度は大変お世話になりました。初めてのタイ旅行、しかもこの年齢(よわい)で初めて経験する事ばかりで面くらいましたが、本当に楽しかった。HKK キャンプ場でのタイ式トイレに度肝を抜かれ、水シャワーに耐え、タランチュラを勇気を振り絞って食しました。でもそれ以上に野生動植物の観察は感動的で、三度の食事の美味しさが胃と心に刻まれています。パンダキャンプでラジオ体操を子ども達の前で披露できたのも嬉しかった。中込ミさん達が長年積み重ねていらした、タイ・日本交流の旅に参加させて頂け幸せな9日間でした。ありがとうございました。

## Nさん

パンダキャンプや国立公園は何回、訪問しても新しい発見があります。特にタランチュラは初食でしたし、国立公園で野生動物をこんなに身近に感じたのも初でした。夕暮れの道端で出会ったゾウ、保護動物が暮らす施設内では迫力あるトラ。おもしろかったです。一方で、楽しみにしていたトッケイの鳴き声は聞けず、残念でした。生で本物を拝聴したいです。毎晩、たくさんビールを飲ませていただきました。幸せです。最後になりましたが、無事に帰国できましたこと、中込ミさんをはじめ参加された皆さんにお礼申し上げます。



## 〇さん

皆様この度は大変お世話になりました。私にとって夢のような9日間でした。タイに行ったのは初めてではありませんが、パンダキャンプは初体験。国内でさえキャンプ経験のない私が、果たして皆さんに付いて行けるのか、正直最初は不安でいっぱいでした。でも参加できて本当に良かったです。一番心臓が高鳴ったのは、パンダキャンプに付いてから、いきなり裸足で川を渡った時です。へっぴり腰で第三者が見たら思わず笑っちゃう姿だったと思います。(サトミさんあの時肩を👉) そんなこんなで貴重な経験をいっぱいさせていただきました。何より大自然の中で、知らなかった草花や動物に出会えたのが一番良かったです。三度の食事も絶品でした。このような素晴らしい旅行を、準備して下さった中込みさんはじめ親切なタイの方々、深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございましたm(\_ \_)m コップンカー👉



## 横山緑さん (自然文化誌研究会 理事)

今年は、高校時代の友達二人を誘っての参加でした。昨年は、コロナ禍を経てのタイキャンプで、4人でしたが、今年は、子供含めて8人の日本からの参加者、それにタイ在住の若林夫妻と子供一人と総勢11人のメンバーが集まりました。パンダキャンプでの思い出の一つは、地元の小学校の子どもたちを招いてのワークショップです。日本のラジオ体操を一緒にやりました。ラジオ体操

の音楽がパンダキャンプ場で鳴り響く中、子どもが身体をそった時に吐いたため息のような声を聞いて、身体硬いんじゃないの・・・?!なんて思ったりもしました。私は、パネルシアターを子供達に見せましたが、今年は、タイの昔話をみてもらいました。「ワニの肝」という話。子供達がどんな感想を持ったか聞いてみれば良かったなと思ってます。野生保護区でキャンプは、最高でした。いろいろな動物を見ることができましたが、野生の象が森の茂みにいたのを車中から見た時は、本当に興奮しました。今年は、野鳥の観察も慣れて、双眼鏡で鳥を探すことがてき、これも楽しい思い出です。最後になりますが、パンダキャンプの食事は、最高です。捕獲した真っ黒で大きなタランチュラというクモを触っただけでも、すごい体験だったのに、まさか、素揚げにして食べるとは夢にも思いませんでした。これが、美味しかったです。私は、卵の入った腹の部分を食べました。毎食、タイの食材をふんだんに使った家庭料理を50種類くらい食べたとします。パンダキャンプ場の竹林に生えていた筍の炒め物は、絶品でした。いやいや、思い出だけで、お腹がなりそうです。よく笑い、よく食べ、よく活動し、私にとって忘れられない思い出深いタイキャンプとなりました。

中心になってくれた中込みさん、参加してくれたみなさん、ありがとうございました!



## 「記憶は5歳から」

黒澤東江（はるちゃん・小菅村在住）と竹晴（たけはる・5歳児・小菅村保育所）

保育士をしている叔母に「記憶は5歳から残るのよ」と聞いてから、5歳になったらなにか記憶に残るようなインパクトのあることをしたいなと思っていた。

5歳のお誕生日を前に、一緒にタイに行くのはどうだろうと思い立った。というのも、ごみさんと緑さんから「タイには竹ちゃんと同じくらいの男の子がいてとっても楽しかったよ」と聞いていたから。同じパーティにちびっ子がいるなら絶対楽しいはず！と思って本人に聞いてみた。

初めは「タイ?」「どこにあるの?」的な返答だったと思う。だけど、飛行機に乗って行くこと、日本から海外に行くことなどを話すとだんだん乗り気になってきた、!!

パスポートを取りに甲府へ行ったときも、受付のお姉さんに「ぼくはタイに行くんだ」と申告していた。だんだん彼の中でタイに行くことが大きくなってきている様子が見えた。

ある日、木俣さんから余っていたタイのお金とタイ語の本をいただいた。コインが大好きな竹晴はこれが何パーツで、これが何パーツ、と言いながら思いを馳せているようだった。挨拶の練習もはじめていて、たまにYouTubeでタイの国がどんな様子か見たりした。



そして迎えた当日。朝早くから家を出て成田空港へ。これから乗る飛行機を見ながら楽しみだね！と繰り返していた。一緒に行くメンバーとすぐに仲良くなり、これから始まる旅がとても楽しみになった。

タイに着いた翌朝、噂のキーリー（タイでホスト役のエーさん息子さん）が登場。よくよく聞いてみると同い年だったことが判明。すぐに仲良くなってとても微笑ましかった。一緒に川で泳いだこと、同じベッドで寝たこと、大きな木を見たこと、全部が彼の糧になっている。

移動中の車内もとても賑やかで（大人は大変ですが）、常に笑っていた旅だった。

子どもを連れての海外は初めてだったけど、このメンバーならいける！という確信があったし、想像以上に楽しい時間だった。ご迷惑ばかりおかけした部分は否めないけれど、みんな優しく救われました。何より竹晴がみんなのことを大好きでまた会いたいと言っていたのが印象的です。ほんとに全員菩薩かと思った（今でも思っている）。

帰国してしばらく経った頃、竹晴が夏休みの思い出の絵を保育所で書いた。キーリーと一緒にタイの川で泳いだ絵だった。川の色は茶色くて、ぼくは水中メガネをしてたくさん泳いだんだ！と教えてくれました、と先生が言っていた。覚えていてくれたら嬉しいけれど、わたしがちゃんと覚えておくから忘れてもいいよ。また行こうね！

